# 上尾市立大石北小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

**学校教育目標**

**ともに学び　明日をつくる**

- **信頼される生き生きとした学校**
- **心豊かでたくましい子**
- **信頼され、情熱のある教職員**

**学校課題研究主題**

「課題を見出し、折り合いをつけ、他者とよりよくかかわる児童生徒の育成」
～小中９年間を見通した学級活動を核とする実践を通して～

## 学力・学習状況調査の結果

| R８全国学力・学習状況調査 | R８埼玉県学力・学習状況調査 | R７ 上尾市立小・中学校学力調査 |
|---|---|---|
| 国語は、平均正答率において全国平均を上回った。漢字や文章の特徴を捉える問題等は高い一方、情報を整理・関連付けて、自分の考えと根拠を明確にして書くことに課題が見られた。<br>算数は、平均正答率において全国平均を上回った。数と計算、図形、測定は比較的良好だが「変化と関係」や「データの活用」に課題が見られ、表や割合の問題で正答率が低かった。 | 国語は、４・６学年が県平均を上回った。５学年は向上し、県と同等となった。一方、文の構造を捉えたり、情報を整理して考えを表現したりすることに課題が見られた。<br>算数は、４・５学年では県と同等以上となったが、６学年では学力の伸びに課題が見られた。全体として小数・分数、基礎的な計算や図形等の既習事項の活用に課題が見られる。一方、学習方略や自己効力感は県と同等以上で、粘り強く学習する姿が見られた。 | 国語では、２、４、５、６学年で「活用」と「思考・判断・表現」の正答率が市平均を上回った。３学年は同程度であった。<br>算数では、４学年で市平均を上回ったが、他学年は下回る結果であった。基礎・基本の四則演算の正答率が低く、既習事項の定着率が低い結果であった。 |

## 本校で身に付けさせる学力

| 知識及び技能の習得 | 思考力・判断力・表現力等の育成 | 学びに向かう力・人間性等の涵養 |
|---|---|---|
| ○学習の基礎・基本となる語彙力や表現力<br>○探究的な学習や体験的な活動をもとに、新たな知識・技能を習得する力 | ○基本的な学習事項を活用し、自ら学びをつくる力<br>○対話的な活動を通して、自分の考えを深める力 | ○状況等に応じて適切に判断し、自ら選択しようとする力<br>○主体的に、粘り強く学ぼうとする力 |

## 学力向上のための授業改善

| 知識及び技能の習得 | 思考力・判断力・表現力等の育成 | 学びに向かう力・人間性等の涵養 |
|---|---|---|
| ○明確な学習課題の設定<br>○個に応じた指導の工夫・改善<br>○家庭・学校応援団・地域と協力した学習<br>○体験活動を通した学習<br>○横断的・往還的な学び | ○基礎・基本を活用し、自己決定していく場面の設定<br>○各教科の見方・考え方などを働かせ、学び方を身に付ける指導の充実<br>○協働的な学習形態を取り入れた、深い学びの推進<br>○目的意識をもたせた課題提示とそれを選択し、解決するための表現の工夫<br>○自分の選択を振り返り、評価する場面の設定 | ○教育課程の工夫・改善<br>○学習規律の確立<br>○選択する場面や機会の設定<br>○「大石北小授業の振り返り（自分、友だち、次）」による自己調整力の育成<br>○ICT 機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進<br>○自己肯定感を育む学級経営<br>○相手意識をもった学びの推進 |

| 本校の特色ある取組 | 家庭教育との連携 |
|---|---|
| ・PTA や親父の会、学校応援団と連携し、ビオトープやくすどり自然博物館等の整備と学習での活用<br>・デジタルドリル等を活用して必要な学習を繰り返し行い、学習内容の定着を図る。<br>・月に一度家庭読書の日を設け、読書活動の推進を図る。 | ・Google forms を活用したアンケート調査の実施<br>・ICT 端末の持ち帰りと Google Classroom の活用 |

## ２　学力向上を図る取組

### （１）各教科の授業における取組（低学年）

**本校で身に付けさせる学力**

| 知識及び技能の習得 | 思考力・判断力・表現力等の育成 | 学びに向かう力・人間性等の涵養 |
|---|---|---|
| ①学習の基礎・基本となる語彙力や表現力<br>②探究的な学習や体験的な活動をもとに、新たな知識・技能を習得する力 | ③基本的な学習事項を習得し、自ら学びをつくる力<br>④対話的な活動を通して、自分の考えを深める力 | ⑤状況等に応じて適切に判断し、自ら選択しようとする力<br>⑥主体的に、粘り強く学ぼうとする力 |

| 教科・領域 | 重点的に身に付けさせる学力 | 具体的な取組 | 成果 |
|---|---|---|---|
| 国語 | ①、④、⑥ | ①自分の考えを相手に伝えようと、話の順番に気を付けて伝えようとさせる取組。<br>④自分の思いを、短文に書き表す取組。<br>⑥読書に親しむ時間をつくり、言語への興味・関心を高める取組。 | |
| 算数 | ②、③ | ②具体物の操作や絵や図を用いた関係性の説明を通して、数感覚や算数的な見方を身に付けさせる取組。<br>③導入場面や ICT 機器活用を工夫することにより、児童の関心や意欲を効果的に高める取組。 | |
| 生活 | ②、④、⑤ | ②体験的な活動を通して人と関わり合いながら、試行錯誤を繰り返し、新たな発見をしたり気付いたりさせる取組。<br>④感じたり気付いたりしたことを、言葉、絵などで表現できるようにする取組。<br>⑤観察や活動の視点を示し、振り返ったり気付きを交流したりする場を設定する取組。 | |
| 音楽 | ①、③、⑥ | ①歌唱や演奏する活動を通して、基本的な技能を身に付けさせる取組。<br>③拍の流れにのって、リズム遊びを楽しませる取組。<br>⑥曲想や拍の流れを感じ取り、楽しく身体表現をする取組。 | |
| 図画工作 | ②、③、⑤ | ②身近な材料を用いたり、扱いやすい用具を使ったりする取組。<br>③既習事項や新たな表現の仕方を生かし、自分の思いを表現する取組。<br>⑤思い付いたことや方法をすぐに試すことができるようにする取組。 | |
| 体育 | ②、⑤ | ②体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けさせ、児童が運動を楽しく、力いっぱい活動できるようにする取組。<br>⑤活動の仕方や競争のルール等を児童の実態に応じて工夫し、児童が運動を楽しめるようにする取組。 | |
| 英語活動 | ①、⑥ | ①日頃から Class Room English を実施し、外国語に慣れ親しませる取組。（日直の英語挨拶、朝の英語放送）<br>⑥児童の実態に合わせてゲームや歌、本の読み聞かせなどを設定し、楽しい雰囲気で英語に親しませる取組。 | |
| 特別の教科　道徳 | ④、⑤ | ④自分の感じたことや思ったことなどを自由に発表し合い、友達のいろいろな考え方に気付かせる取組。<br>⑤自分自身を振り返り、自分のよさや自分ができないことなどに気付き、これからの自分について考えさせる取組。 | |

**Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す**

## ２　学力向上を図る取組

### （１）各教科の授業における取組（中学年）

**本校で身に付けさせる学力**

| 知識及び技能の習得 | 思考力・判断力・表現力等の育成 | 学びに向かう力・人間性等の涵養 |
|---|---|---|
| ①学習の基礎・基本となる語彙力や表現力<br>②探究的な学習や体験的な活動をもとに、新たな知識・技能を習得する力 | ③基本的な学習事項を習得し、自ら学びをつくる力<br>④対話的な活動を通して、自分の考えを深める力 | ⑤状況等に応じて適切に判断し、自ら選択しようとする力<br>⑥主体的に、粘り強く学ぼうとする力 |

| 教科・領域 | 重点的に身に付けさせる学力 | 具体的な取組 | 成果 |
|---|---|---|---|
| 国語 | ①、④、⑤ | ①時間的な順序や事柄の順序等を考えながら読む取組。<br>④「始め」「中」「終わり」の段落、文章構成を意識し、主語、述語を正しく使って、継続的に小作文を書く取組。<br>⑤丁寧な言葉遣いに気を付け、伝えたいことを相手に伝わるように話したり、聞いたりするようにさせる取組。 | |
| 社会 | ②、④、⑥ | ②自分の考えを伝え合う場を設け、学習に対する意欲を高める取組。<br>④ＩＣＴ機器を活用し、必要な情報を取捨選択して、わかりやすく相手に伝わるようにまとめさせる取組。<br>⑥児童が調べてみたいと思うような身近な課題提示の取組。 | |
| 算数 | ①、②、④、⑥ | ①具体物や半具体物の操作等、数学的活動を多く取り入れ、数量の感覚を正しくつかませる取組。<br>②三角形の性質や図形を多面的に見る力を高められるように、解いてみたいと思うような問題場面を工夫し、様々な適用問題を提示する取組。<br>④問題解決のために必要となる算数の用語に着目させ、自分の考えを言葉や数字、式などの自分に合った方法を選択して表現させる取組。<br>⑥既習事項を振り返る習慣を作り、単元横断的、学年横断的に考えを広げる取組。 | |
| 理科 | ②、④、⑤ | ②ＩＣＴ機器を含め、様々な道具を活用し、自然の事物・現象について違いを発見する楽しさを味わわせる取組。<br>④観察、実験の際に見方や考え方のポイントを押さえ、自分の考えを文章や絵で表現する取組。<br>⑤問題や課題を解決するための手立てや方法など、児童に課題意識をもたせ、学習活動の過程を意識させる取組。 | |
| 音楽 | ③、④、⑤ | ③友達と一緒に、歌唱や器楽演奏をする楽しさを味わわせる取組。<br>④歌詞の内容や、曲想に注目して曲の特徴を捉えた表現を工夫させる取組。<br>⑤自ら楽器を選択させ、活動に夢中になって取り組めるように工夫し、表現することの楽しさを身に付けさせる取組。 | |
| 図画工作 | ④、⑤ | ④ＩＣＴ端末の活用や参考となる作品を提示し、本時の流れを詳しく説明することで、豊かな発想につなげるような取組。<br>⑤自らの表したいことに応じて道具や技法を選択し、試行錯誤しながら表現を広げられるようにする取組。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 体育 | ①、②、⑤ | ①慣れの運動を十分に行い、基礎的な動きを身に付けられるような取組。<br>②場の工夫や課題の明確化をすることによる児童の意欲を高める取組。<br>⑤児童の課題にあった場の設定を工夫し、活動時間を確保する取組。 | |
| 外国語活動 | ②、③、⑥ | ②普段から Class Room English を活用し、外国語に慣れ親しませる取組。(日直の英語挨拶・廊下での英会話)<br>③ふり返りカードを活用し、自己評価を行う取組。また、ふり返りカードに英語専科のコメントを入れ、達成感や自己有用感をもたせる継続的な取組。<br>⑥児童の実態に合わせてゲームや歌、本の読み聞かせを設定し、楽しい雰囲気をつくる取組。 | |
| 特別の教科　道徳 | ②、⑤ | ②一人一人のよさを認め合い、どのような考えも安心して発表できる学級の雰囲気をつくる取組。<br>⑤道徳的な価値を実感させ、それまでの体験から自分を見つめさせるような取組。 | |

**Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す**

## ２　学力向上を図る取組

### （１）各教科の授業における取組（高学年）

**本校で身に付けさせる学力**

| 知識及び技能の習得 | 思考力・判断力・表現力等の育成 | 学びに向かう力・人間性等の涵養 |
|---|---|---|
| ①学習の基礎・基本となる語彙力や表現力<br>②探究的な学習や体験的な活動をもとに、新たな知識・技能を習得する力 | ③基本的な学習事項を習得し、自ら学びをつくる力<br>④対話的な活動を通して、自分の考えを深める力 | ⑤状況等に応じて適切に判断し、自ら選択しようとする力<br>⑥主体的に、粘り強く学ぼうとする力 |

| 教科・領域 | 重点的に身に付けさせる学力 | 具体的な取組 | 成果 |
|---|---|---|---|
| 国語 | ①、④ | ①自分の意見を書く時間や授業の振り返り、日記等、文章を書く機会を増やす。また既習の漢字を積極的に使う取組。<br>④叙述を基に自分の考えをまとめたり、対話する時間を十分に確保したりして、自分の考えや気付きを表現するとともに他者の考えを取り入れ、自分の考えを深化するような取組。 | |
| 社会 | ②、④、⑥ | ②資料を読み取る活動を取り入れる。その際、着目点を明確にして取り組ませる。他の資料と比較させ、共通点や相違点、変化等について読み取り、説明させる取組。<br>④自分の考えを示すときは、根拠をはっきりとさせて、言葉や図で書き表す取組。<br>⑥児童が調べてみたいと思う資料を用いて、日常生活との関連を意識しながら、課題設定等に生かす取組。 | |
| 算数 | ①、④ | ①計算の定着を図るため、折に触れ計算方法の確認を行い、問題を解かせる場面を設定する。その際、ＩＣＴ機器や具体物・半具体物を活用する取組。<br>④自分の意見を書き表す時間を十分に確保し、数学的用語を用いて友達と説明しあうことにより、論理的に相手に伝える力を育成する取組。 | |
| 理科 | ①、④、⑤ | ①各実験を行う前に、比較すべきことを確認し、条件制御の必要性について考えるように支援する取組。<br>④観察や実験では予想とその根拠についてノートやデジタル教材に書き、結果から分かることを自分の言葉で考察として書かせたり、交流したりする取組。<br>⑤実験道具、ＩＣＴ機器を活用し、身の回りの現象の変化とその要因を関連付けさせる取組。 | |
| 音楽 | ①、⑤ | ①呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けさせる取組。<br>⑤歌詞の内容や、曲想に注目して曲の特徴を捉え、自身の表現を工夫させる取組。 | |
| 図画工作 | ②、④、⑥ | ②児童の表現の幅が広がるように、既習の技法（にじみ、ぼかし等）や新しい技法を実演で示す取組。<br>④適宜、話合い活動を設けることにより、表したいものへのイメージを膨らませたり、様々な表現の仕方があることに気付かせたりする取組。<br>⑥意欲を高めたり、活動しやすくするために、ＩＣＴ機器等を活用して、例示を行ったり、モデリングを通して、やり方を具体的に示したりする取組。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 家庭 | ①、③、⑤ | ①実習や製作の活動を通して、安全に留意した使い方等、基本的な技能や用語の定着を図る取組。<br>③実践的・体験的活動を通して、習得した知識や技能を実生活に結びつける取組。<br>⑤ＩＣＴ機器を活用して、調理や製作場面の具体的なイメージをもたせる取組。また、交流場面を設け、より活動しやすい方法を見出す取組。 | |
| 体育 | ②、③、⑥ | ②各運動領域の楽しさと特性を味わわせ、基礎・基本となる体力を高めるとともに、授業の振り返りから自己の課題を見つめ直し、解決させる取組。<br>③児童が自ら課題を考え、解決する力を育てるために、場の工夫や課題の明確化、評価の一体化、教材･教具の活用、指示や説明の簡略化する取組。<br>⑥主体的に粘り強く取り組む力を育てるために、単元や授業のねらいを確認することで、本時に必要な運動の技能について見通しをもたせる取組。 | |
| 外国語科 | ①、④、⑥ | ①導入で ASAP タイム(日本語を素早く英語に変換する時間)を設け、語彙力を伸ばしたり、パフォーマンステスト(単元の最後に ALT と自分の考えをやりとりする時間)を通して、表現力を伸ばしたりする取組。また、毎時間、四線ノートを利用し､丁寧かつ正確に英単語を書く取組。<br>④ペラペラタイム(既習内容を使って、身近な話題をもとに、友達同士で会話する時間)を設け、情報をアウトプット(音声発信)し、相手を意識しながらコミュニケーションをしたり、互いのよさを認め合ったりする協同的な学びの取組。<br>⑥毎時間、復習タイムの時間を確保し、各自のタブレット(デジタル教科書やワードブック)を活用しながら、個別最適な学びや「学び方を学ぶ」時間を確保する取組。また、振り返りカードの活用により、自己評価や相互評価を行い、次時への見通しをもたせる取組。 | |
| 特別の教科　道徳 | ②、④、⑤ | ②多面的・多角的に考える活動を行うことで道徳的な価値のよさを感じさせたり、深めさせたりする取組。<br>④互いの違いを確認し、承認できるように話合いを充実させる取組。<br>⑤道徳的価値の理解や話合い活動を基にして、自分がどんな生き方をしていきたいか考えさせる取組。 | |

**Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す**

## （２）教育活動全体を通じた取組

| 本校の特色ある取組 | |
|---|---|
| ①ＰＴＡ活動<br>学校応援団 | (1)毎朝有志の６年生児童が校門に立ち、挨拶運動を行う。<br>(2)親父の会とビオトープの保全活動を定期的に行う。<br>(3) さつまいも植えや収穫、ミシンボランティア、プールボランティア、等の学習や体験活動に参加している。<br>(4) 理科室前に生物生態展示、パネル展示等の「くすどり自然博物館」 を設置し、週２～３回えさやりや水替えの協力を行ったり、国語や理科、総合的な学習の時間等で学習材として活用したりしている。<br>(5) ほたる観賞会や昔あそび、生活科のまち探検の見守り等、地域への情報発信、啓発活動をコーディネーターに行っていただいている。<br>(6) くすどりクリーンDAY（清掃活動）に参加している。 |
| ②特別活動の取組 | (1)児童会による校内あいさつ運動を実施している。<br>(2) くすどりクイズラリーを通して、縦割り班活動を実施している。<br>(3) 普段からお世話になっている方々を招き、感謝の集いを実施している。 |
| ③道徳科の取組 | (1) ＩＣＴ端末を活用した授業を行う。<br>(2) 各学年で道徳資料を単元ごとに整理をしている。<br>(3) 学年内ローテーション道徳の実施 |
| ④外国語活動の取組 | (1) 教科担任（学級担任）と ＡＬＴが協力して授業を行い、発達段階に合わせた系統性のある授業を行う。また、１時間の授業の流れの型をつくり、児童がどんな流れで １ 時間の授業が進むのかが分かり、安心して授業に臨む雰囲気づくりに努める。<br>(2) ＡＬＴとの会話の時間を積極的に取り入れ、ネイティブな発音や抑揚などに慣れ親しませる。<br>(3) 放送を使って英語に慣れ親しませる時間(朝…挨拶と今日の出来事<br>昼…給食の献立や本の読み聞かせ)を設ける。ＡＬＴや放送委員会・図書委員会の児童が協力して活動し、英語に親しめる環境を整備する。<br>(4) 高学年は、ALT とのパフォーマンステストを実施し、コミュニケーション能力を高める実践を行う。 |
| ⑤基礎・基本の徹底 | (1) スタートタイムや習熟の時間に、デジタルドリル等を活用して必要な学習を繰り返し行い、学習内容の定着を図る。<br>(2)Google サイトを使った学習コンテンツ集「北小ポータル」や Google classroom、まなびポケット、オンライン教材の積極的な活用を行う。<br>(3) 月に一度家庭読書の日を設け、読書活動の推進を図る。 |
| ⑥特別支援教育の取組 | (1) 自分の気持ちや思い、考えを自分の言葉で伝えられるよう支援する。そのために、自分の気持ちをどう伝えればよいか、具体物（カード）等を活用しながら表現を示し、児童自身でも振り返ることができるようにする。<br>(2) 学習の目的を明らかにし、児童が学ぶことに興味や関心をもてるように支援する。交流なども通じて、児童同士の多様な考えに触れさせ、自分と異なる考えがあることを理解させる。<br>(3) 毎日の運動習慣をつくり、健康の保持・増進や、体力向上にむけた実践を継続する力を育てる。<br>(4) 給食や授業で通常学級との交流を積極的に実施し、インクルーシブ教育を推進している。 |

| | |
|---|---|
| ⑦教科担任制の充実 | (1)外国語・音楽をはじめ多くの教科指導で教科担任制を採用している。<br>(2)低学年から学年内交換授業も積極的に実施している。 |
| ⑧教育相談の充実 | (1)教育相談がしやすい環境整備を充実させるため、毎年、全職員対象の教育相談研修を実施している。<br>(2)学校だよりを通じて、SC、さわやか相談員への相談についての情報を発信している。<br>(3)上尾市教育センター、SSW、関係機関との連携を充実させている。<br>(4)教室に入りにくい児童のための居場所として「くすどりルーム」を設置している。<br>(5)必要に応じて児童支援シートを作成し、情報の引継ぎを行っている。 |

## 家庭教育との連携

| | |
|---|---|
| ①家庭学習の充実 | (1)まなびポケット、デジタルドリルの活用を学校側から保護者に啓発するとともに、教師による継続的な指導により活用率を向上させ、習熟を図る。<br>(2) Google site を使って学習コンテンツ集「北小ポータル」を作成。e board とともに ICT を活用して学校教育と家庭学習の連携を図る。<br> |
| ②学校公開 | (1)授業参観、学校公開等で学校での学習状況や児童の活動を家庭に把握していただく。また、Google フォームを活用してアンケート調査を行い、それを検証することで学校教育活動の改善を図る。<br>(2)学習準備、家庭学習・早寝早起き朝ごはん等の家庭の協力を得る。 |
| ③学校メール配信・学校ホームページ・玄関前モニタの活用 | (1)適宜、学校配信メール（さくら連絡網）で学校情報・教育情報、不審者情報等を配信する。<br>(2)適宜必要な情報について精査し、ホームページに掲載する。<br>(3)玄関前のモニタに行事等を投影し、来校時に保護者等に適宜見ていただけるようにする。<br>(4)毎月の児童の様子をまとめてホームページに掲載する。<br> |